



企業製品基準の転換

令和7年12月16日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

今日技術やシステムの革新は、その先端性が世界をけん引するものであり、それら基準における企業製品の確立は現実への参加を与える唯一の基盤である。

これらは先端性への追従を否定するものであり、独創性の創造は必ずその企業哲学を要求するのである。

可能性という挑戦は、未来を可能とするものである。これらはアメリカにおける新たな現実の基盤であり、彼らの国民性である。

企業が未来を模索するとき、その企業製品が企業の未来を決定するのである。これら正しい視点は正しい企業経営の実現を与えるものである。

また市場を分析し新たな市場の需要への対応を有することは、唯一企業経営を与えるもののなのである。

これらは適切な企業製品の確立は企業における未来における可能性そのもののなのである。

これらにおいて企業は新たに自己を要求し、その実現を得ることは未来の実現そのもののなのである。

これらは決して美辞麗句ではない。企業が競争と市場原理ものと生き残りを模索するとき、それらは現実そのもののなのである。

それら視点は企業の開発投資とともに、その未来における可能性の実現をその企業製品の確立において実現できることであり、それらは視点と基準の飛躍を企業に要求するものである。

経営者の判断においてこれら現実を有するならば、未来の実現を得るものであり、今日の変化という現実においてそれらは否定されるものではないと考える。